

第23回（令和元年度第1回）
セーフコミュニティ 自殺予防対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和2年1月31日(金) 15:00～

場所：市役所14階 会議室

1. 開 会

2. 正・副委員長の選出について

3. 報告事項

(1) 対策委員会の役割と今後の主なスケジュールについて（資料1）

4. 協議事項

(1) 具体的施策（取り組み）について（資料2～4）

(2) 今後のデータ収集について（資料5～7）

5. その他

6. 閉 会

【セーフコミュニティ】今後のスケジュール

業 務	R1(H31)年度												R2年度			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
SC推進協議会								委員 改選 11/9			(研修)					協議会 本部会議 調整会議
SC対策委員会					委員 改選 8/1		研修 10/31			自殺予防 第23回 1/31	1回程度開催		自殺予防 第24回 4月～5月		1回程度開催	
外傷等動向 調査委員会							研修 10/31					1回程度開催				
SCフェスタ							10/14									

国際認証第2期(2019～2023)
の主な予定

2019(H31/R1)	◎今後5年間の基本的な方針の決定 ◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の概要検討と整理
2020(R2)	◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の決定と実施、集計・分析
2021(R3)	◎取り組みの骨格の検証と見直し
2022(R4)	◎国際認証の再々取得のための事前指導
2023(R5)	◎国際認証の再々取得のための現地審査

久留米市のセーフコミュニティ推進の骨格(6分野10項目8対策委員会42施策)

重点取り組み分野 (6分野)	重点取り組み項目 (10項目)	対策委員会 (8組織)	No.	具体的施策 (42施策)	
交通安全	高齢者の交通事故防止	交通安全 対策委員会	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施	
			1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施	
	1-③		安全安心マップの作成		
	1-④		交通安全教室の実施		
	1-⑤		自転車安全利用キャンペーンの実施		
子どもの安全	児童虐待の防止	児童虐待防止 対策委員会	2-①	新生児訪問事業の地域連携	
			2-②	赤ちゃんふれあい体験事業	
			2-③	児童虐待防止啓発事業	
	学校の安全	学校安全 対策委員会	3-①	校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取り組みの実施	
			3-②	校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取り組みの実施	
			3-③	いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取り組みの実施	
			3-④	火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施	
			3-⑤	交通安全教育の実施	
			3-⑥	地域・保護者と連携した交通指導の実施	
			3-⑦	防犯教育の実施	
			3-⑧	地域・保護者と連携した防犯の取組の実施	
	高齢者の安全	転倒予防	高齢者の安全 対策委員会	4-①	転倒予防に関する普及・啓発
				4-②	転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防
高齢者虐待の防止		4-③		虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催	
		4-④		介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修	
		4-⑤		地域で高齢者を見守るネットワークの構築	
犯罪・暴力の予防	犯罪の防止・ 防犯力の向上	防犯 対策委員会	5-①	自転車ツーロックの推進	
			5-②	青パト活動団体の拡大・連携強化	
			5-③	安全・安心感を高めるための地域環境の整備	
			5-④	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催	
			5-⑤	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施	
			5-⑥	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発	
	DV防止・早期発見	DV防止 対策委員会	6-①	男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実	
			6-②	教育現場等における予防教育の充実	
			6-③	パープルリボンキャンペーンの実施	
			6-④	医療関係者に対する研修の強化	
自殺予防	自殺・うつ病の予防	自殺予防 対策委員会	6-⑤	子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実	
			7-①	ゲートキーパー研修	
			7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化	
			7-③	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施	
			7-④	民間団体と協働した相談の実施	
防災	地域防災力の向上	防災 対策委員会	7-⑤	生活困窮者からの相談支援	
			8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施	
			8-②	防災に精通しているリーダーの育成	
			8-③	避難行動要支援者名簿の登録促進	
			8-④	避難行動要支援者個別支援計画の充実	
8-⑤	地域の避難計画を作成				

今後の基本方針について

近年の悲惨な事故や事件、多発かつ大規模化する自然災害などを考えると、市民の安全安心の確保は、今後益々重要になると思われれます。

そこで、久留米市は、セーフコミュニティの取り組みを柱として、安全安心のまちづくりを更に進めるために、今年度以降５年間の基本方針を以下のとおり定めるものです。

- (１) 状況変化等に合わせて、重点分野・項目、対策等の見直しを適切に行う。
- (２) 「協働」をテーマに、市と市民や関係団体等がより幅広く連携できるものにする。
- (３) 若者や外国人など関りが薄かった層や個人でできる取り組みを進める。

<基本方針の設定理由>

これまでの取り組みにより、けがや事故、一般刑法犯認知件数等の減少、市民の意識向上、市と市民や関係団体等との連携など、一定の成果が出ています。そして、昨年１２月には、WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証「セーフコミュニティ」の再認証を取得することができました。

一方、国際セーフコミュニティ認証センターの公認審査員からは、取り組みに係る人員や層の拡大と行政主導ではない取り組みを増やすことなどを助言されました。

また、取り組み宣言から５年目の平成２８年度には、重点分野・項目の見直しをしていないことなど残された課題もありますので、上記基本方針を掲げるものです。

なお、セーフコミュニティの国際認証取得については、国内自治体や認証制度の動向などを引き続き十分把握し、検討していきます。

<これまでの主な経過と今後の予定>

- 平成２３年 ７月 セーフコミュニティの取り組み宣言
- 平成２５年１２月２１日 国際認証取得（中核市及び九州の自治体で初めて）
- 平成２９年 ２月 具体的施策の見直し（４２事業へ）
- 平成３０年 ７月 再認証取得のための現地審査を受ける
- 平成３０年１２月 ８日 再認証記念式典を開催（再認証取得）
- 令和元年度 実態調査を含む収集すべきデータの整理・集約、委員改選
- 令和２年度 セーフコミュニティ実態調査等各種データの収集・分析
- 令和３年度 取り組みの検証と見直し（再々認証取得に関する意思決定）
- 令和４年度 （再々認証取得のための事前指導）
- 令和５年度 （再々認証取得のための現地審査）
- 令和５年１２月 ７日 再認証の認定期間満了

【現行】

具体的施策	指標	内容
ゲートキーパー研修	活動指標	ゲートキーパー啓発回数、人数
	【短期】	参加者の意識変化「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合
	【中期】	市民からのうつ・自殺に関する相談件数[精神保健相談]
	【長期】	①自殺者数 ②自損行為による救急出勤数と死亡数
かかりつけ医と精神科医の連携強化	活動指標	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数
	【短期】	参加者の意識変化「本日の研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まりましたか。」
	【中期】	①うつ病を疑い精神科医に紹介した件数 ②うつ病と診断された人の人数と割合
	【長期】	①自殺者数 ②自損行為による救急出勤数と死亡数
自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施	活動指標	啓発協力団体数、配布箇所、配布部数
	【短期】	協議会参加者の意識の変化
	【中期】	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]
	【長期】	①自殺者数 ②自損行為による救急出勤数と死亡数
民間団体と協働した相談の実施	活動指標	①ハローワーク相談会及びこころの相談カフェ等の開催回数 ②参加者数
	【短期】	参加者の意識の変化
	【中期】	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]
	【長期】	①自殺者数 ②自損行為による救急出勤数と死亡数
生活困窮者からの相談支援	活動指標	新規相談受付件数
	【短期】	関係機関等から繋がった機関数
	【中期】	自立相談支援事業における支援計画策定数及び支援最終件数
	【長期】	自殺者数 自損行為による救急出勤数と死亡数

【新規案】

具体的施策	指標	内容
ゲートキーパー研修 ※7-①・7-③を統合 自殺予防に関する普及啓発活動の実施	活動指標	啓発協力団体数、配布箇所、配布部数 ゲートキーパー啓発回数、人数
	【短期】	協議会・啓発事業の参加者の意識変化【「理解できた」と回答した人の割合】
	【中期】	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]
	【長期】	①自殺者数 ②自損行為による救急出勤数と死亡数
かかりつけ医と精神科医の連携強化	活動指標	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数
	【短期】	参加者の意識変化「本日の研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まりましたか。」
	【中期】	① うつ病を疑い精神科医に紹介した件数 うつ病と診断された人の人数と割合 ② 小児科・産婦人科医から精神科医に紹介した件数
	【長期】	①自殺者数 ②自損行為による救急出勤数と死亡数
子ども・若者の自殺対策の推進 ※新規	活動指標	SOSの出し方教育実施校数、参加者数 啓発物配布数
	【短期】	参加者の意識変化
	【中期】	39歳以下からの精神保健福祉相談件数 小・中・高校生に関する相談件数（こども子育てサポートセンター）
	【長期】	①20歳未満の自殺死亡率 ②20～30歳代の自殺死亡率
民間団体と協働した相談の実施	活動指標	①ハローワーク相談会及びこころの相談カフェ等の開催回数 ②参加者数
	【短期】	参加者の意識の変化
	【中期】	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]
	【長期】	①自殺者数 ②自損行為による救急出勤数と死亡数
生活困窮者からの相談支援	活動指標	新規相談受付件数
	【短期】	関係機関等から繋がった機関数
	【中期】	自立相談支援事業における支援計画策定数及び支援最終件数
	【長期】	自殺者数 自損行為による救急出勤数と死亡数

自殺予防対策委員会

【自殺・うつ病の予防】7-① ゲートキーパーの養成																															
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い世代の中で、死亡原因の1位は「自殺」である 自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、約70%が男性である 																													
	主観的課題	働き盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある																													
目標	市民一人ひとりの気づきと見守りを促す																														
内容	身近な人の「うつ」等のサインに気づき、適切な対応を図ることができるゲートキーパーの役割を担う人材を養成する。あらゆる機会を捉え市民の身近な場所に出向き出前講座などを通して、ゲートキーパーの啓発を図る。																														
対象者	市民、民生委員、理容師、薬剤師、介護福祉サービス事業者など																														
実施者	市																														
対策委員会の関わり	対策委員の提案や意見をもとに、自殺対策の窓口一覧をまとめた啓発冊子を作成し、出前講座等により配布している。																														
2018年度の実績及び改善した点等	<p>[実績]</p> <p>啓発回数 68回 啓発人数 2,413人</p> <p>(主な啓発先)</p> <table border="1"> <tr> <td>・民生委員</td> <td>31回</td> <td>636人</td> </tr> <tr> <td>・校区等</td> <td>9回</td> <td>212人</td> </tr> <tr> <td>・理容組合</td> <td>2回</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>・職域</td> <td>3回</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>・職員</td> <td>3回</td> <td>227人</td> </tr> <tr> <td>・その他出前講座</td> <td>16回</td> <td>602人</td> </tr> <tr> <td>・講演会</td> <td>2回</td> <td>270人</td> </tr> <tr> <td>・かかりつけ医</td> <td>2回</td> <td>357人</td> </tr> </table> <p>[改善した点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民向け講演会では、子どもの心の健康に関する内容を取り上げて実施した。また、中学生を対象に「SOSの出し方教育」の取組みを開始し、今後、広げていく方針である。 ・市内大型百貨店従業員や図書館職員等への研修を実施した。 ・校区でのゲートキーパー研修は、2018年度で市内全小学校区を網羅した。 							・民生委員	31回	636人	・校区等	9回	212人	・理容組合	2回	30人	・職域	3回	79人	・職員	3回	227人	・その他出前講座	16回	602人	・講演会	2回	270人	・かかりつけ医	2回	357人
・民生委員	31回	636人																													
・校区等	9回	212人																													
・理容組合	2回	30人																													
・職域	3回	79人																													
・職員	3回	227人																													
・その他出前講座	16回	602人																													
・講演会	2回	270人																													
・かかりつけ医	2回	357人																													
2019年度の方針及び課題等	より一層の対象者拡大を図るとともに、地域への啓発を継続的に行うことにより、ゲートキーパーを浸透させていく。																														
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018																								
活動指標	ゲートキーパー啓発回数、人数	回	149	66	67	46	68																								
		人	5,290	3,527	2,294	2,336	2,413																								
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合	%	2017より実施			87.7%	94.1																								
【中期】態度・行動	市民からのうつ・自殺に関する相談件数 [精神保健相談]	件	145	155	154	131	96																								
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—																								
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—																								
		件	25	41	32	28	—																								

【自殺・うつ病の予防】7-② かかりつけ医と精神科医の連携強化

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、約70%が男性である 自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い 						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> うつや自殺に対する不安を感じる人が少ない 働き盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある 						
目標	適切な医療を受けられる体制づくり							
内容	内科等のかかりつけ医と精神科医が連携を強化することにより、うつ病の早期発見、早期治療のみならず医療連携体制の整備及び地域支援ネットワークの構築を図る。							
対象者	内科等のかかりつけ医、精神科医、産業医など							
実施者	医師会、市							
対策委員会の関わり	かかりつけ医・精神科医連携研修検討会委員にはセーフコミュニティ対策委員会メンバーも入っており、積極的な意見や提案がなされている。							
2018年度の実績及び改善した点等	<p>[実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会 2回（筑後地区一円の8医師会共催） 第1回 195人 （内容）子どものうつ・発達障害と虐待についての講演、周産期から子育て世代の切れ目のない支援について、産科医・小児科医・行政からの視点でパネルディスカッション 第2回 162人 （内容）アルコールの連携システムの講演、産褥期のうつをテーマにしたロールプレイ <p>・参加者アンケートでは、「研修前と比べて理解が深まったか」との項目に対して、「とても」「まあまあ」と回答した人が、95%以上であり、研修会の満足度は高かった。</p> <p>・かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態を継続して把握している。 （久留米方式として全国的に認知されている）</p> <p>[改善した点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師のみならず行政機関や養護教諭へも参加案内を行い、参加者数は過去最多となった。 							
2019年度の方針及び課題等	かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態把握及び研修会等の継続実施を行う。研修会の開催にあたっては、医師会事業との連携を行いながら、更なる連携を図っていく。							
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018	
活動指標	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数	回	2	2	2	2	2	
		人	191	264	307	260	357	
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「本日の研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まりましたか。」	%	2017より実施				93.3	96
							98	98.7
【中期】態度・行動	①うつ病を疑い精神科医に紹介した件数	件	1146	1279	1257	1363	集計中	
	②うつ病と診断された人の人数と割合	人	456	473	475	395	集計中	
	[うつ病アプローチ研修集計]	%	39.8	37.0	37.8	28.9	集計中	
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—	
	②自損行為による救急出動数と死亡数[救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—	
		件	25	41	32	28	—	

【自殺・うつ病の予防】7-③ 自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い世代の中で、死亡原因の1位は「自殺」である 自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている 						
	主観的課題	働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る						
目標	社会的な取り組みで自殺を防ぐ							
内容	自殺対策の推進を図るため、現状と各団体の取り組みについて情報を共有する。29年度より、自殺対策に関する啓発活動に協働で取り組む。							
対象者	一般市民							
実施者	自殺対策連絡協議会委員及びセーフコミュニティ自殺予防対策委員、市							
対策委員会の関わり	自殺対策連絡協議会にはセーフコミュニティ対策委員会メンバーも入っており、積極的な意見や提案により、他の団体の意識も向上している							
2018年度の実績及び改善した点等	<p>[実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自殺対策連絡協議会 1回開催 40団体出席 参加者の協議会前後の意識変化として、75%が自殺対策についての理解がとて深まったとアンケートに回答していた。 キャンペーン等で、関係団体と協働した啓発活動 自殺対策連絡協議会、セーフコミュニティ自殺予防対策委員会等、関係団体と協働し、9月（自殺予防週間）、3月（自殺対策強化月間）街頭キャンペーン等での啓発活動や、啓発物の掲示・配布を実施した。 <p>[改善した点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内書店で、啓発しおりとポスターを配布し、啓発活動を実施。 職域におけるメンタルヘルス対策について、適正飲酒啓発チラシを作成し、関係機関に配布を行った。 絆づくり補助金活用団体に対しても、普及啓発活動参加の依頼を行った。 							
2019年度の方針及び課題等	自殺予防週間や自殺対策強化月間などの機会を捉えて、各団体や委員と連携し、普及啓発活動に取り組む。また、関係団体と協力し、啓発ツールの作成や活用を進める。							
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018	
活動指標	啓発協力団体数、配布箇所、配布部数	団体	2017より実施				59	59
		箇所	2017より実施				59	59
		部	2017より実施				179	2,309
【短期】認識・知識	協議会参加者の意識の変化 [参加者アンケート]	%	2017より実施				40.4	75
【中期】態度・行動	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]	相談者	145	155	154	131	96	
		関係機関	50	56	29	46	54	
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—	
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—	
		件	25	41	32	28	—	

【自殺・うつ病の予防】7-④ 民間団体と協働した相談の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い世代の中で、死亡原因の1位は「自殺」である 自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている 					
	主観的課題	働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る					
目標	民間団体との連携を強化する取り組み						
内容	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク相談会 勤務問題や経済生活問題を抱える方が訪れる場所の一つであるハローワークにおいて、自殺の要因となりうる、借金、多重債務、損害賠償などの社会問題や、それらの問題から発生する心の問題に対応するため、司法書士・保健師等による相談会を実施する。 こころの相談カフェ 悩みを抱え込む前に気楽に相談できるよう、市民に身近な場所で、臨床心理士等のカウンセラーによる対面相談を実施する。 (2016年8月～岩田屋久留米店にて開設、2017年4月～久留米市立中央図書館にて増設) 						
対象者	一般市民						
実施者	民間団体、市						
対策委員会の関わり	相談の開催などの広報周知						
2018年度の実績及び改善した点等	<p>[実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ハローワーク相談会 全4回実施 計14件(14人) (内訳) 8月:2件、10月:5件、1月:5件、3月:2件 こころの相談カフェの開催 全68回 190件(212人) (2019年3月末時点) (内訳) 岩田屋久留米店 : 毎週火曜日(51回) 久留米市立中央図書館: 毎月第3日曜日13時から16時、 奇数月の第3火曜日17時から19時30分(17回) <p>[改善した点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「こころの相談カフェ」について、図書館での相談のニーズが高く、2018年度には、日曜実施分を隔月から毎月へ拡充し、相談を受け付けている。 						
2019年度の方針及び課題等	<p>(ハローワーク相談会)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に自殺者の多い30～50代の働き盛り世代や無職者層を中心とした相談会を継続する。より相談しやすいよう、開催時期を変更する。 <p>(こころの相談カフェ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 男性の利用者が減少傾向にあるため、平日夜間の相談時間を見直すとともに、チラシの内容や設置場所等の啓発方法を工夫する。2019年度も引き続き、相談窓口を継続する。 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	①ハローワーク相談会及びこころの相談カフェ等の開催回数	回	4	4	4 34	4 61	4 68
	②参加者数	人	22	24	22 125	19 217	14 212
【短期】認識・知識	参加者の意識の変化 [参加者アンケート]	%	2017より実施			76.5	71.4
【中期】態度・行動	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]	相談者	145	155	154	131	96
		関係機関	50	56	29	46	54
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—
		件	25	41	32	28	—

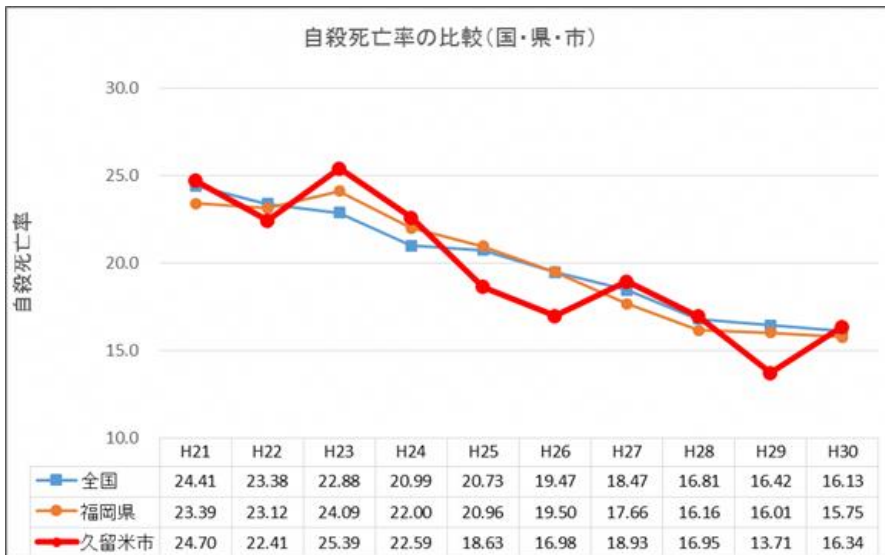
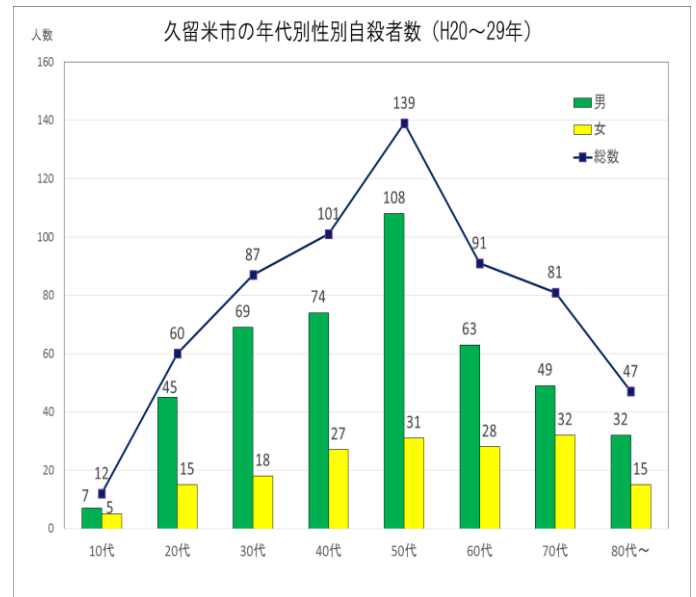
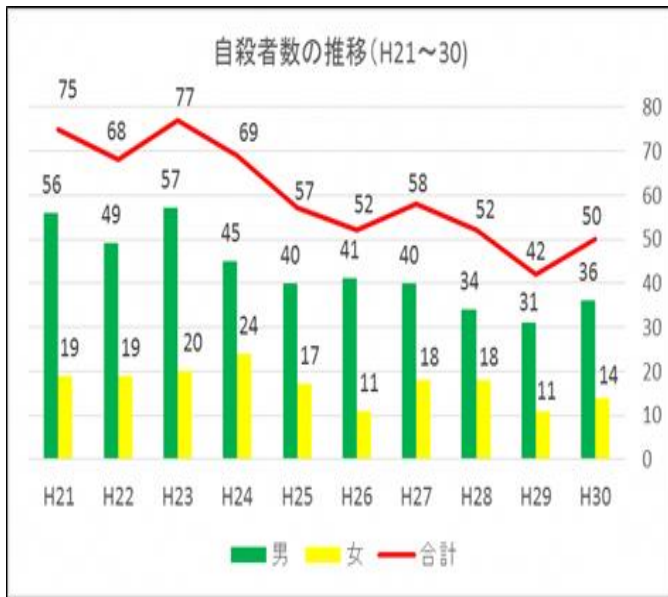
【自殺・うつ病の予防】7-⑤ 生活困窮者からの相談支援

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 自殺の要因となる経済的な問題や家庭の悩み、精神的な病気などを抱えている相談者が多い 相談者の中には、過去自殺未遂歴をもつ者やこれまでに自殺企図、希死念慮をもつ相談者もあり、自殺企図・希死念慮を課題にもつ相談者アセスメント上の分類では3%程度であるが、相談する中で「死にたい程に苦しい」等の言動まで含むとさらに増える 					
	主観的課題	自己肯定感が低い人、社会的に孤立している人も非常に多い					
目標	相談のつなぎ元となる入口や、また多様な出口の支援のために連携先を増やす						
内容	生活に困りごとを抱えている相談者に伴走しながら支援を行い、困りごとのひとつひとつを解決に向けてともに相談していく。またつなげる連携先・制度等があれば伴走しながら、しかるべき支援につないでいく。						
対象者	生活に困りごとを抱えている一般市民						
実施者	久留米市生活自立支援センター（担当課：生活支援第2課）						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布 高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携 ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携 自殺予防対策委員会にて、生活自立支援センターの相談状況を報告、評価検討している。 						
2018年度の実績及び改善した点等	<p>新規相談受付件数 <u>8201,035</u> 件/年 -(2019年1月末現在)- 関係機関等から繋がった機関数・・・未集計 自立相談支援事業における支援計画策定数 659 件/年 支援終結件数 223 件/年</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018年度については未集計だが、2017年度における新規相談受付件数887件は、人口10万人あたりの件数では、全国の115都道府県・政令市・中核市で第9位となっており、久留米市の相談支援は全国的にも高い水準で実施している。 2018年度もこれまでと同様、相談者のアセスメントをする中でプランを作成し、必要に応じて連携先（各支援窓口、医療機関、就労支援先等）に同行するなど相談者に寄り添った、伴走型の困りごと支援を行った。アセスメントをする中で、自己肯定感の低さから自殺企図をもつ相談者もいたため、適宜保健所をはじめとした関係機関と協働しながら相談者の支援にあたり、相談者の環境改善を図った。 						
2019年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> 久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布 高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携 ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携 必要に応じた関係機関（各支援窓口、医療機関、就労支援等）との相互連携 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	新規相談受付件数	件	—	668	845	887	1,035
【短期】認識・知識	関係機関等から繋がった機関数 [支援入りロデータ]	機関	—	庁内 23 庁外 17	庁内 27 庁外 15	庁内 27 庁外 21	未集計
【中期】態度・行動	自立相談支援事業における支援計画策定数及び支援終結件数[支援プランデータ]	計画	—	177	475	513	659
		件	—	55	141	190	223
【長期】状況	自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—
	自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—
		件	25	41	32	28	—

久留米市の自殺の現状について

久留米市では、平成 20 年度から自殺対策の取組を開始以降、自殺対策連絡協議会、セーフコミュニティの取組等を活用し、関係団体と連携を図りながら総合的に自殺対策を推進してきた。一定の効果は認められ、自殺者数は近年減少傾向にあるものの、「久留米市自殺対策計画」では、さらに社会づくりや地域づくりの視点を持った対策の必要性や、一律の取組ではなく、世代や抱える課題に応じた施策の展開を盛り込み、令和元年度より、計画に基づき取組を実施している。

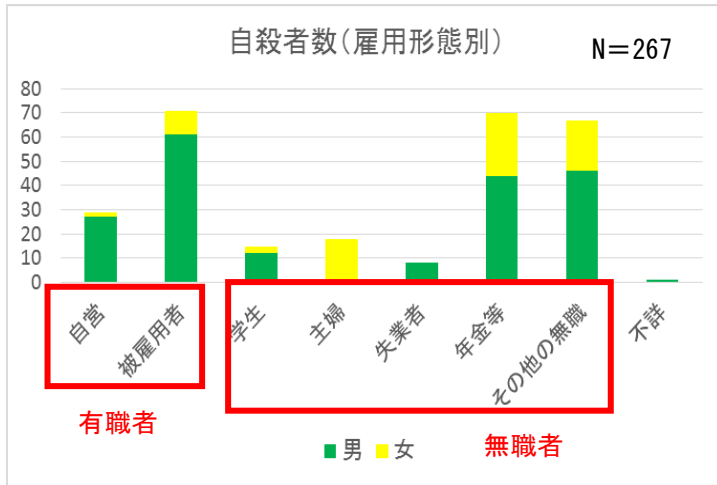
(1) 自殺者数・自殺死亡率の推移（人口動態統計）



- ・年間 50 人前後の方が自殺により亡くなっている。
- ・全国的にも自殺者数・自殺死亡率は減少傾向。久留米市においても同様の傾向となっている。
- ・久留米市においては、50 歳代男性が最も多い。
- ・死因を年齢別にみると、自殺は幅広い年齢層で上位に入っており、特に 15~39 歳においては死因の第 1 位である。
- ・警察庁統計によると、平成 30 年の自殺者数は 51 人で、10 代の自殺者数は 9 人であった。

(2) 職業別にみた自殺者の状況

無職者が多く 163 人 (61%) となっており、中でも「年金・雇用保険等生活者」の割合が高い。有職者では、「被雇用者」の割合が高い。



【被雇用者】 61 人

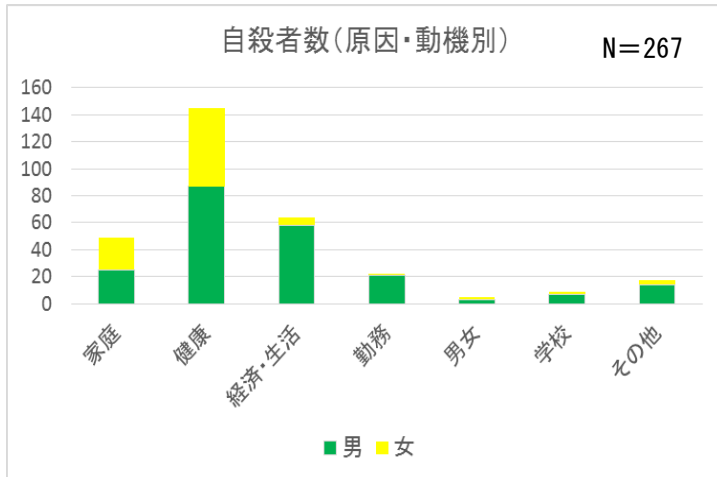
- ① 労務作業 12 人(20%)
- ② サービス業 11 人(18%)
- ③ 専門職/技能職 7 人(11%)

【自営業】 27 人

- ① 土木・建築 6 人(22%)
- ② 農林漁業 5 人(19%)
- ② 飲食 5 人(19%)

(3) 原因・動機別にみた自殺者の状況

男女とも「健康問題」が最も多く、次いで男性は「経済・生活問題」、女性は「家庭問題」を抱える割合が高い。



【健康問題】 145 人

- ① うつ病 61 人(42%)
- ② 身体の病気 52 人(36%)

【経済・生活問題】 64 人

- ① 生活苦 22 人(34%)
- ② 負債(借金等) 15 人(23%)
- ③ 負債(多重債務) 7 人(11%)

【家庭問題】 49 人

- ① 家族の将来悲観 12 人(24%)
- ② 家族の死亡 7 人(14%)
- ③ 介護・看病疲れ 6 人(12%)

(4) 年代・背景別にみた自殺者の状況

①子ども・若者

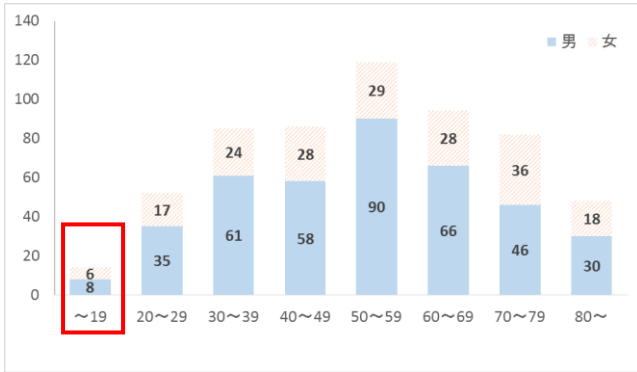
19歳以下では、中高生が最も多く、原因・動機別では、学校問題が最も多い。

20～39歳では、職業別にみると、被雇用者が最も多く、原因・動機別では、健康問題が最も多い。

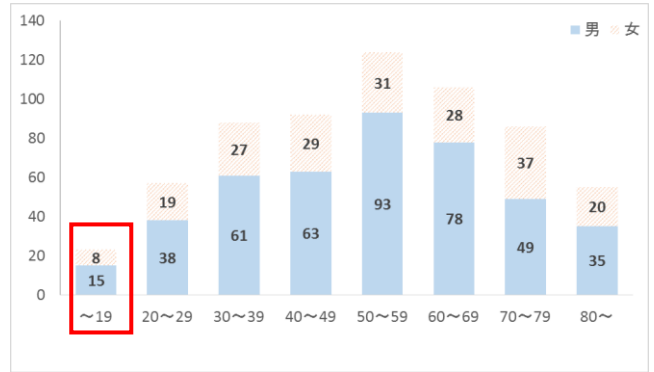
	自殺者数	職業別（上位3つ）	原因・動機（上位3つ）
19歳以下	15人	1 中高生 7人（47%） 2 大学・専修学校生等 5人（33%）	1 学校問題 7人（58%） 2 その他 5人（42%）
20～39歳	58人	1 被雇用者 21人（36%） 2 その他無職 18人（31%） 3 自営業 6人（10%）	1 健康問題 23人（33%） 2 家庭問題 12人（17%） 経済・生活問題 12人（17%） 4 勤務問題 11人（16%）

・ 自殺者数

H21～29年の年代別自殺者数



H21～30年の年代別自殺者数



20歳未満の自殺者数は例年0～3人程度で推移していたが、平成30年に9人と急増した。

・ 自殺死亡率

20歳未満の自殺死亡率 (地域自殺対策プロファイル)	1.7 (H24～28年平均) 参考：全国2.4	5.1 (H26～30年平均) 参考：全国2.54
20歳代～30歳代の 自殺死亡率 (地域自殺対策プロファイル)	18.8 (H24～28年平均) 参考：全国19.6	16.21 (H26～30年平均) 参考：全国18.69

20歳未満の自殺死亡率のH26～30年の平均値は、全国よりも高く、H24～28年の平均値より上昇。

・ 死因の順位

全国では、H29年の年齢階級別でみた死因順位では、10歳～39歳で第1位が自殺であった。男性では10～44歳で第1位・女性では15歳～29歳で第1位（10～14歳・30～49歳では第2位）久留米市ではH23～27の累計では、15歳～39歳で自殺が第1位であった。

②中高年男性

職業別にみると、「被雇用者」が最も多く、原因動機別では、「経済・生活問題」が最も多い。

	自殺者数	職業別（上位3つ）	原因・動機（上位3つ）
40～59歳 男性	54人	1 被雇用者 21人（39%） 2 その他無職 14人（26%） 3 自営業者 10人（19%）	1 経済・生活問題 29人（29%） 2 健康問題 26人（26%） 3 勤務問題 8人（8%）

③高齢者

職業別にみると、年金受給者等が最も多く、原因・動機別では、健康問題が最も多い。

	自殺者数	職業別（上位3つ）	原因・動機（上位3つ）
60歳以上	116人	1 年金等受給者 60人（53%） 2 その他の無職 27人（23%） 3 被雇用者 11人（9%）	1 健康問題 76人（58%） 2 家庭問題 25人（19%） 3 経済・生活問題 19人（15%）

④生活困窮者

「経済・生活問題」を抱えていた自殺者を、職業別にみると、被雇用者が最も多い。

	自殺者数	職業別（上位3つ）
「経済・生活問題」を抱える者	64人	1 被雇用者 24人（38%） 2 その他の無職 16人（25%） 3 自営業者 12人（19%）

※（2）～（4）は、警察庁自殺統計原票データ（平成26～30年累計）を厚生労働省において特別集計したものを久留米市で作成

子ども・若者の自殺対策の取り組みについて

平成28年の自殺対策基本法の改正後、平成29年に新たな自殺総合対策大綱が閣議決定され、SOSの出し方に関する教育の推進を含む、子ども・若者の自殺対策が挙げられている。
また、久留米市自殺対策計画を平成31年3月に策定し、子ども・若者を重点対象者とし、自殺対策の取り組みを推進している。

【今年度の子ども・若者の自殺対策のとりくみ】

1. 生徒に対する「SOSの出し方教育」

生徒が自己肯定感を高め、将来おきるかもしれない危機的状況に備えて、SOSが出せるようになること及び周囲のSOSを受け止めることができるよう啓発を行う。

また、生徒からのSOSを受け止める教職員に対しても、教職員向けのガイダンスを実施。対応の方法等の啓発を行う。

【今年度の実績】（令和元年12月現在）

- ・ 実施校数：中学校3校 ※今年度中学校1校・高等学校1校実施予定

2. こころの応援カードの作成・配布

18歳以下の子どもを対象に、LINE等のSNSや電話での相談先を記載した「こころの応援カード」を新たに作成。SOSの出し方教育の実施校のほか、市内図書館や書店にも配布した。

また、9月の自殺予防週間にあわせて実施する街頭啓発キャンペーンでは、夏休み明けの子どもの自殺が社会問題となっていることから、9月2日の夏休み明け直後に実施。通学途中の児童・生徒を中心に、カードなどの啓発グッズの配布を行った。

【今年度の実績】（令和元年12月現在）

- ・ 「こころの応援カード」配布枚数：4,437枚



3. 大学等での普及・啓発

自殺の現状や相談先の周知、周囲への気づき、心の健康についてのパネル展示を実施。また、心の健康や依存症について学園祭のブース出展を通して啓発を実施。

【今年度の実績】（令和元年12月現在）

- ・ パネル展示 4校 ブース出展 1校

4. 長期休暇前後の啓発の実施

夏休み明け及び冬休み前に、保護者向けに子どもの変化のサインや各種相談先をホームページで情報発信を行った。また、学校を通してチラシの配布を行った。

生徒向けには、居場所となりうる公共施設や各種相談先をホームページで情報発信を行った。

5. 周囲の大人向けの講演会の実施

周囲の大人が思春期の発達や心理等を学び、子どものSOSサインやそれを受け取った際の対応方法等を身につけるため、「子どものSOSを受け止める」のテーマで講演会を開催予定。

具体的な施策とその内容の評価データ出典先

具体的施策	指標	内容	評価データ出典先	
自殺予防	7-① ゲートキーパー研修	活動指標	ゲートキーパー啓発回数、人数	
		【短期】	参加者の意識変化「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合	参加者アンケート
		【中期】	市民からのうつ・自殺に関する相談件数[精神保健相談]	
		【長期】	①自殺者数	人口動態統計
			②自損行為による救急出動数と死亡数	救急搬送データ
	7-② かかりつけ医と精神科医の連携強化	活動指標	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数	
		【短期】	参加者の意識変化「本日の研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まりましたか。」	参加者アンケート
		【中期】	①うつ病を疑い精神科医に紹介した件数	うつ病アプローチ研修集計
			②うつ病と診断された人の人数と割合	うつ病アプローチ研修集計
		【長期】	①自殺者数	人口動態統計
②自損行為による救急出動数と死亡数	救急搬送データ			
7-③ 自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施	活動指標	啓発協力団体数、配布箇所、配布部数		
	【短期】	協議会参加者の意識の変化	参加者アンケート	
	【中期】	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]		
	【長期】	①自殺者数	人口動態統計	
②自損行為による救急出動数と死亡数		救急搬送データ		
7-④ 民間団体と協働した相談の実施	活動指標	①ハローワーク相談会及びこころの相談カフェ等の開催回数		
		②参加者数		
	【短期】	参加者の意識の変化	参加者アンケート	
	【中期】	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]		
	【長期】	①自殺者数	人口動態統計	
②自損行為による救急出動数と死亡数		救急搬送データ		
7-⑤ 生活困窮者からの相談支援	活動指標	新規相談受付件数		
	【短期】	関係機関等から繋がった機関数	支援入りロデータ	
	【中期】	自立相談支援事業における支援計画策定数及び支援最終件数	支援プランデータ	
	【長期】	自殺者数	人口動態統計	
自損行為による救急出動数と死亡数		救急搬送データ		

セーフコミュニティ実態調査と市民意識調査について						
	SC実態調査					市民意識調査
	平成26年度	平成29年度			令和2年度(案)	令和元年度
調査目的		SCの具体的施策の根拠やその成果指標等の最新データとして収集し、平成30年度の認証現地審査のデータに活用する。			SCの具体的施策の根拠やその成果指標等の最新データとして収集し、重点分野や重点項目等の検証・見直しに活用するとともに、取組の見直しを図る。	市民ニーズや地域の課題を把握し、積極的に市政運営に活用する。
調査サイクル	3年毎	3年毎			以後5年毎に変更	毎年
調査対象者	20歳以上	17歳以下	18～64歳	65歳以上	計	18歳以上
	2,500人	1,000人	1,500人	1,000人	3,500人	2,500人
有効回収数(回収率)	1,400人(56.0%)	574人(57.4%)	703人(46.9%)	727人(72.7%)	2,004人(57.3%)	2,800人(56.9%)
実査方法	郵送調査法	郵送調査法			郵送調査法	郵送調査法
設問数(枝番数)	14(17)	34(16)	43(5)	44(20)		全35問程度
調査時期	H26.11.10～11.25	H29.8.17～8.31				8月中旬から下旬
						7月下旬～8月下旬

【成果指標】
 ・不安やストレスを相談することへのためらいを感じる人の割合
 ・「ゲートキーパー」の認知度
 ・「自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題である」と思う人の割合

● 現行の各調査設問、自殺対策計画への掲載内容

調査項目	市民意識調査	SC実態調査			自殺対策計画	
	H29	H29			成果指標	資料
		子ども	一般	高齢者		
1か月の間に不安や悩み、ストレスを抱えたことがあるか⇒原因	○					○
不安や悩み、ストレスを抱えた場合誰かに相談したりすることにためらいを感じるか	○				○	○
不安や悩み、ストレスを抱えた場合誰に相談するか	○					○
自殺についてどう思うか (設問5つ)			○		○	○
うつ病についてどう思うか (設問5つ)			○			○
自分がうつ病ではないかと思ったとき、どの専門窓口を利用したいか ⇒医療機関や相談窓口を利用しない理由			○			○
家族や知人がうつ病ではないかと思ったとき、医療機関や相談窓口を勧めるか			○			○
これまで自殺したいと思った又は自殺未遂の経験はあるか⇒原因⇒思いとどまった理由			○			○
ゲートキーパーについて知っているか			○		○	○

※ 市民意識調査 (H23・26)、SC実態調査 (H23・26) では調査なし

● 改正案

調査項目	市民意識調査	SC実態調査			自殺対策計画	
	H29	H29			成果指標	資料
		子ども	一般	高齢者		
1か月の間に不安や悩み、ストレスを抱えたことがあるか⇒原因	○					○
不安や悩み、ストレスを抱えた場合誰かに相談したりすることにためらいを感じるか	○				○	○
不安や悩み、ストレスを抱えた場合誰に相談するか	○					○
自殺についてどう思うか (設問5つ)			○		○	○
うつ病についてどう思うか (設問5つ) 削除			○			○
自分が 心身の不調を感じた とき、どの専門窓口を利用したいか ⇒医療機関や相談窓口を利用しない理由			○			○
家族や知人の 心身の不調を知った とき、医療機関や相談窓口を勧めるか			○			○
これまで自殺したいと思った又は自殺未遂の経験はあるか⇒原因⇒思いとどまった理由			○			○
ゲートキーパーについて知っているか			○		○	○

ケガや事故の実態調査	
うつ病・自殺の認知度	
① あなたは、自殺についてどう思いますか。次の1から5のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いもの一つだけに○をつけてください。(○は1つずつ)	
1 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
2 自殺せずに生きていけば良いことがある	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
3 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
4 責任を取って自殺することは仕方がない	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
5 自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題である	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
② あなたは、うつ病についてどう思いますか。次の1から5のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いもの一つだけに○をつけてください。(○は1つずつ)	
1 うつ病は精神的な弱さや性格が原因である	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
2 うつ病は本人の怠け・甘えであり、病気ではない	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
3 うつ病は休養をとることが大切である	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
4 うつ病は早期発見・早期治療が大切である	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
5 うつ病は適切な治療により治る病気である	(a)そう思う b)ややそう思う c)ややそう思わない d)そう思わない e)わからない
うつ病・自殺の実態	
① あなたは、もし、ご自身がうつ病ではないかと思ったときに、どの専門窓口を利用したいと思いますか。	
1 かかりつけ医の医療機関(精神科や心療内科等を除く) 2 精神科や心療内科等の医療機関 3 保健所等の公的機関の相談窓口 4 いのちの電話等民間機関の相談窓口 5 その他 6 何も利用しない	
② ①で、「6 何も利用しない」と答えた方に、お聞きします。医療機関や相談窓口を利用しない理由は何ですか。	
1 お金がかかることは避けたい 2 精神的な悩みを話すことに抵抗がある 3 時間の都合がつかない 4 どの窓口を利用したらよいか分からない 5 過去に利用して、嫌な思いをしたことがある 6 根本的な問題の解決にはならない 7 うつ病は特別な人がかかる病気なので、自分には関係ない 8 治療をしなくても、ほとんどのうつ病は自然に治ると思う 9 その他()	
③ あなたは、家族や知人がうつ病ではないかと思ったとき、医療機関や相談窓口へ行くことを勧めますか。	
1 精神科の受診を勧める 2 内科等のかかりつけ医の受診を勧める 3 相談窓口を勧める 4 勧めない 5 わからない	
④ あなたは、これまでの人生の中で、自殺したいと思った又は自殺未遂の経験がありますか。	
1 自殺未遂の経験がある 2 自殺したいと思ったことがある 3 自殺したいと思ったことがない	
⑤ ④で「1」又は「2」と回答された方にお聞きします。あなたが、自殺したいと思った原因は何ですか	
1 家庭に関する事 2 健康に関する事 3 経済的な問題に関する事 4 勤務に関する事 5 恋愛や結婚に関する事 6 学校に関する事 7 その他()	
⑥ ④で「2」と回答された方にお聞きします。あなたが、自殺を思いとどまった要因は何ですか。	
1 家族や友人、同僚などの身近な人に悩みを聞いてもらった 2 医師やカウンセラーなどの心の健康に関する専門家に相談した 3 弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの元となる分野の専門家に相談した 4 自殺しようと思った原因が解決した 5 自殺対策のチラシやポスターを見た 6 できるだけ休養をとるようにした 7 趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるようにした 8 その他() 9 特に何もなかった	
自殺対策の実態	
① あなたは「ゲートキーパー」について知っていますか。	
1 ゲートキーパー養成講座を受けたことがあり、知っている 2 名称は聞いたことがあり、養成講座を受講したいと思う 3 名称は聞いたことがあるが、養成講座を受講したいとは思わない 4 名称も聞いたことはなく、養成講座も受講したくない 5 名称も聞いたことはなく、内容も知らない	

久留米市の自殺データ（速報）について

- 警察庁統計について：令和元年（平成31年）の暫定値が公表。
自殺者数は38人（令和元年11月末現在）となっている。
※男女別等については未公表

